

CONTENTS

自作自演168 ..... 関戸敏訓・宮本好信・森 哲哉・加藤幸治 ..... 2

第3回 インドの都市から考える  
伝統的な中庭式住居での生活 ..... 柳沢 究 ..... 4

JIA静岡発 建築ウォッチング 東京工業大学大岡山キャンパス見学会 ..... 石橋 剛 ..... 6

JIA愛知発 賛助会CPD研修会 室内環境や人に配慮した商品を紹介... 深井裕之 ..... 7

JIA愛知発 「建築家賠償責任保険解説」講習会 想像力を駆使し事故回避を... 見寺昭彦 ..... 8

JIA三重発 建築文化講演会 栗生明氏「水環境と建築」 ..... 山下和哉 ..... 9

JIA三重発 『三重の建築散歩』発刊 歴史を語る建造物とまちなみ50選紹介... 萩原義雄 ..... 10

Bulletin Board ..... 11

2012年度 JIA の建築賞決定 ..... 村井達也・鈴木祥司・吉元 学 ..... 12

JIA 公益法人化にあたって ..... 鳥居久保・服部 滋 ..... 14

東北からのメッセージ  
原発事故は私たちの事故 建築や社会を変えていく提案を ..... 竹内昌義 ..... 16

会員のステージ  
世界劇場会議国際フォーラム2013に参加して ..... 鈴木利明 ..... 18

「木愛の会」公共木造建築見学会 ..... 田中英彦 ..... 19

保存情報 第137回 三嶋曆師の家 ..... 山田正博 ..... 20

九々五集 ..... 林 廣伸 ..... 20

理事会レポート ..... 鳥居久保 ..... 21

東海支部役員会報告 ..... 松本正博 ..... 22

東海とっておきガイド⑤③ 愛知編 ..... 庭山真由美 ..... 23

地域会だより ..... 23

編集後記 ..... 吉元 学・鈴木賢一 ..... 24

映画の中の建築 ①

安土城



戦国時代の建築家の役割はいかようなものであったろうか。そんな疑問に答えるように山本兼一の小説『火天の城』は入念な調査の上に想像を膨らませ、熱田の宮大工岡部又右衛門（建築家）と信長（クライアント）の安土城築城の物語をつくった。

映画「火天の城」（2009年、監督田中光敏、主演西田敏行）はその原作を下敷としながら映画の見せ場として興味深いシーンを加えている。信長の面前での指図（設計図）争いの場面だ。つまり今でいうコンペやプロポーザルである。金閣寺を建立した京の池上家、奈良の大仏殿建造を担った中井一門との対決で、前二者の華麗な屏風図とひな型（模型）の前で、又右衛門は信長の要望を無視してまで彼の建築家としての矜持を貫く。そして自分を含めた三つの模型を面前で燃やし、火の通り実験を検証して信長を説得する。映画らしい見せ場のひとつである。

今、安土城を訪れ、残された無骨な石段を踏みしめると、山ごと城塞化し日本で初めての超高層建築に挑んだ信長をはじめとする、建築に携わった人々の雄大なロマンが偲ばれる。

光崎敏正 | 愛知地域会





**関戸 敏訓** (JIA 静岡)

公共設計 (浜松市中区砂山町353-3 大協土地ビル7F TEL 053-455-4402 FAX 053-455-0154)

## 京都仏像考察

仏像好きの女性「仏女」という存在が最近注目されつつあるという。かくいう私も、仏像が好きだ。

紀元前1～2世紀、インドで誕生した仏像は、シルクロードを経て中国、朝鮮半島、日本と伝わってきたわけだが、仏像が誕生した経緯を辿りたく、若かりしときにはインド、そして、最近では中国奥深くシルクロードまで足を運んでいる。

日本でも大陸の玄関口であった小浜の仏像は、ギリシャ彫刻風の彫りの深い顔の仏像が多く、京都・奈良の仏像はふっくら、のっぺりとした穏やかな印象となるという。

これからの時期、桜の美しい京都の寺の中で、どの顔の仏像が一番癒されるか、私なりのナンバー3を挙げてみたいと思う。

やはり、ナンバー1は美しいアルカイックスマイルに癒される「弥勒菩薩半跏思惟像・広隆寺」。梅原猛の『隠された十字架・法隆寺論』を41年ぶりに再読したくなった。

そしてナンバー2は、優しさでは一番だろう「見返り阿弥陀如来像・永観堂」。後ろを振り返る珍しいお姿。「ちゃんとしておいでよ」と振り向いて確認してくださっているらしい。

そしてナンバー3は、「仏女」の方々にも人気の高い「帝釈天半跏像・東寺」。“ゾウに乗った王子さま”と噂の仏像界のアイドルらしい。

地味であるが、しかし、奥深く楽しい仏像の世界である。



**宮本 好信** (JIA 愛知)

愛知工業大学 (豊田市八草町八千草1247 TEL 0565-48-8121 FAX 0565-48-0277)

## スペインのマリア

バレンシア大学数学科、博士課程のマリアさんからのメールを紹介する。

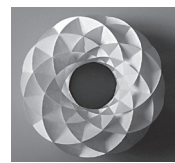
拝啓 宮本教授

私たちはあなたの作品を最近まで知らないまま、同じ結果を発見していました。(中略) 友人が微分幾何学の演習でヴィラソー円の例題を扱っており、数学ソフトのマセマティカであなたの作品と同じ結果を得ていました。私たちは昨年、論文「ヴィラソー円によるトーラス曲面製作」を学術誌「幾何と図学」に投稿したあとで、あなたがすでにインターネットで同様の模型を公開していたことを知りました。この「発明」はすべてあなたに帰することをお伝えし、その作品を論文に引用しなかったことを心からお詫びいたします。敬具

María G. Monera

芸術デザイン分野での発想が数学・工学に先行することはよくあることですが、インターネットと検索サービスの普及で、学者は単純に「知らなかった」とは言えない時代となりました。私が発表していたのは写真共有SNSのflickrでした。2010年に公開後、型紙を公表したこともあり、MITメディアラボや各国のデザイナーが再制作作品を、同じflickrに投稿していました。マリアさんの論文は解析数学で定式化したもので、私自身が専門家に解決してほしかった内容でした。今後、開発中のデザインの数学的定式化をマリアさんに依頼し、テレビ会議でゼミをすることにしました。

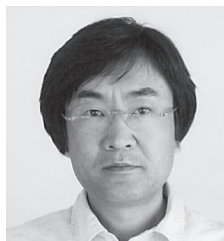
※バレンシア大学：創立1499年、学生数55,000人 ※flickr筆者サイト URL：[http://www.flickr.com/photos/yoshinobu\\_miyamoto/sets](http://www.flickr.com/photos/yoshinobu_miyamoto/sets)



トーラス 2010



マリアさん



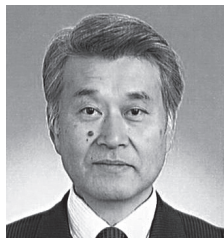
## 森 哲哉 (JIA 愛知)

森建築設計室 (名古屋市天白区植田本町2-812-1 TEL 052 807-3205 FAX 052-807-3206)

### ブラウジング

ブラウジングという言葉は二十数年前、その頃勤めていた事務所ではじめて耳にしました。図書館で書架の間を歩きながら、気ままに本を手に取り、ぱらぱらとページをめくりながら拾い読みをする。はっきりとした目的はないが、何かを期待している。そのような意味と記憶しています。デジタル化の進んだ今日では、ブラウザによってインターネットで情報を探すこととして広く知られています。調べてみると、browseとは、動物が硬い植物の新芽の柔らかい部分をたべること (Oxford English Dictionary) が原義としてあり、比喩的に多くの情報から必要な部分を選び取る行為として使われるようになったようです。広義には、街をぶらぶらする、ショッピング、美術鑑賞、旅など日常生活まで及ぶとも言われています。

尾張一宮駅前に図書館ができたと聞き、訪れました。立地の良さとデジタル化が進む社会での図書館のあり方について興味を持ったからです。一宮中央図書館は、ご存知の方も多と思いますが、「i-ビル」(民間施設、会議室、子育て支援センター、図書館からなる複合施設)の中にあります。図書館のフロア中央には明るく開放的な書架が整然と並んで、その脇の閲覧デスク、ベンチシートなどは心地良さにこだわっているのが感じられます。訪れたのが日曜日ということもあり、多くの利用者が来館していました。最近では、ショッピングセンターに併設した図書館も見かけます。人が集まるところに設けるのではなく、魅力的な図書館があるから人が集まるようになれば相乗効果も期待できます。先ほども述べたように、人にはブラウジングという欲求があります。私は書架の中から清家清の作品集を手に取り、充実した時を過ごすことができました。また訪れたい、そんな気持ちになれば図書館の未来は明るいと思います。



## 加藤 幸治 (JIA 岐阜)

愛知江南短期大学 (愛知県江南市高屋町大松原172 TEL 0587-55-6165 FAX 0587-55-6167)

### 伝統的建造物群保存地区視察について

2月24日(日)に郡上八幡で開催された見学会に参加しました。場所は、郡上八幡北町伝建地区に重要伝統的建造物群保存地区を含む4地区で、あいにく朝から雪化粧でした。午前中、郡上市の建築士でもある学芸員の方より、重伝建選定の経緯から地区特性、建築基準法(修理・修景・許可)と補助金制度と税の優遇措置など、制度を生かしたまちづくりの説明を受けました。最近、いろいろな地域で伝統的な町家を保存するための規制や新しいものとの関係が非常に難しく、歴史的風致を損なわないよう、材料、色彩、形状、看板など所有者の方の理解と連携が重要ですが、費用も重要な要素です。この地では、大正8年の大火で北町はほとんど消失し、大正後期から昭和初期にかけての復興町家が多く残っています。当時、屋根は高価な瓦葺きでなくセメント瓦で、それらは現在、長敬寺の塀の冠瓦として残っています。

木造2階建てで間口は2~3間、切妻屋根で袖壁、ガラス戸などがあり、間取りは一列3室が町家の特徴です。午後の雪降りの中、町並みを視察していると、軒樋の端に雪止材が取付プレート金物で留められ、隣との屋根仕舞に合わせて屋根勾配を変えられているなど、雪や連続する町家に対応して考えられています。各地域の特有なものを発見できました。保存をどうするかが今後の課題と思います。



雪の中の見学



インドの  
都市から  
考え  
第③回

# 伝統的な中庭式住居での生活



柳沢 究

名城大学理工学部建築学科 准教授

やなぎさわ・きむむ | 1975年横浜市生まれ。2001年京都大学大学院修了。2003年神戸芸術工科大学助手。2008年一級建築士事務所建築研究室設立。2012年より現職。博士(工学)作品:「斜庭の町家」「紫野の町家改修」[SAKAN Shell Structure]ほか。著書:「京都げのむ」「生きている文化遺産と観光」「無有」ほか。受賞:地域住宅計画賞、京都デザイン賞入選、雪のデザイン賞奨励賞、タキロン国際デザインコンペ2等ほか。

## □インドの中庭式住居

インドの住居は地方によってさまざまであるが、地域や民族・文化の違いを超えた一定の共通性が見られる。それは中庭を中心とした住居形式である。

中庭式住居はモエンジョ・ダール遺跡からも数多く発掘されており、その歴史はインド文明とともに古い。風や光といった自然環境を住居の中で担保するのが中庭の第一の機能であろう。世界の中庭式住居が、主として高密度な都市部で成立したのはそのためである。しかし同じくらい重要なのは、中庭が屋外の開放性を、屋内と同等の安全性やプライバシーを確保した上で、享受するための空間である点だ。とりわけ熱帯地域では、風通しのよい外部空間が生活の中で活用される。その観点からは都市と村落の区別はなく、実際に北インドの中庭式住居は村落部の単純な一室住居から漸次発達して成立したという説もある。中庭式住居の発祥が都市か村落か、今のところ答えは定まらないが、ともあれインドの住居の多くは中庭を中心とするのである。前回取り上げたヴァストゥ・プルシャ・マンダラによる住居レイアウトの規定でも第一に挙げられるのは、住居の中心は中庭にすべし、というものであった。

インドの各地にさまざまな様式や形態の中庭式住居があり、貴族や大商人による邸館とでも呼ぶべき大規模なものが有名であるが、以下ではヴァーラーナシー旧市街に見られる(今のところ)ごく普通のありふれた伝統的な中庭式住居を事例に、インドの住生活の一断面を眺めてみたい。

## □気候条件

ヴァーラーナシーを含むインド中北部の季節には、寒冷期(1~2月)・暑期(3~6月)・雨期(6~9月)・モンスーン後退期(9~12月)の四季がある。最も気温の上がる5~6月は日中の気温が時に50℃を超える(寒冷期の最低気温は10℃程度)。年間降水量の9割がもたらされる雨期に入ると、気温は若干下がるものの平均湿度が80%を超える高温多湿の不快な気候となる。高密度に建て込んだヴァーラーナシーの旧市街では、このような高温乾燥の暑期と高温多湿の雨期にいかに対応するかという観点から、住居や住み方に工夫がされており、特に暑期の遮熱と断熱、雨期の湿気対策としての通風に意がくだかされている。

## □ヴァーラーナシーの伝統的住居の概要

旧市街に残る伝統的な住居は古いもの

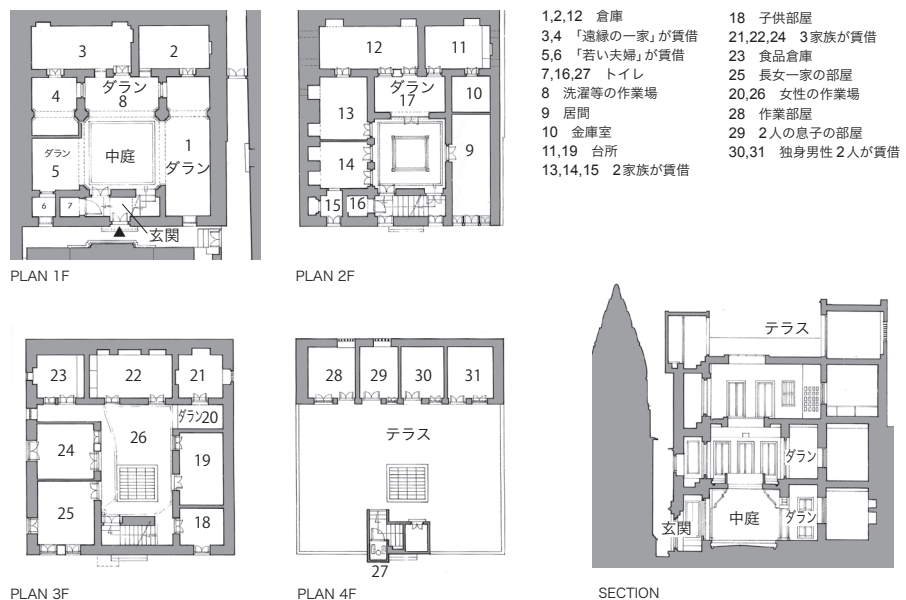


図1: ヴァーラーナシーの典型的な伝統的住居。家主一家に親戚や間借人の家族、あわせて10世帯42人が居住する(出典: Couté, Pierre Daniel; Léger, Jean Michel, "Bénarès: un voyage d'architecture", Paris: Editions Creaphis, 1989)



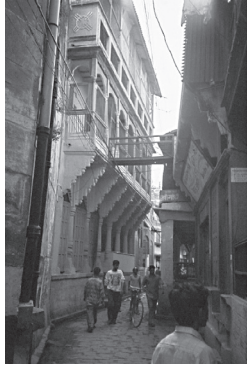


写真1：旧市街の街路風景

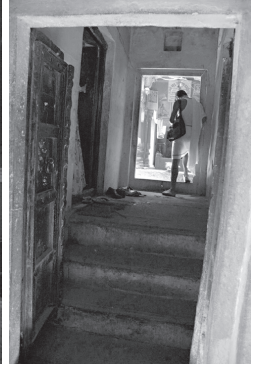


写真2：玄関。暗く小さな空間を経て中庭へアプローチする



写真3：井戸のある中庭。周囲をダランがめぐり、その奥に居室がある



写真4：中庭とダラン。ダランにはマットが敷かれくつろぐ場所となっている

で18世紀末、多くは19～20世紀半ばに建設されたもので、規模は建築面積50～100㎡に2～4階建てが標準的である。親戚や間借りもあわせた複数家族で10～30人が居住するものが多い。構造はレンガ造で壁厚は40～60cmと厚く、隣家と境界壁を共有して(または密着させて)いる。敷地を一杯使って建設するため、狭い街路の両側に家々が隙間なく建ち並ぶことになる(写真1)。厚い壁は屋外の熱が室内に伝わるのを防ぐため、壁を共有/密着し隙間なく建て込むのは外気や日射に触れる外壁面積を減らすための工夫と考えられている。内部の構成は、この敷地一杯に立ち上がった箱の中心に堅穴(=中庭)を穿ち、残った空間を小部屋状に仕切ったものと考ええると分かりやすい(図1)。住居を構成する基本的な要素は以下の五つである。

①玄関(写真2)：街路と中庭を繋ぐ、デヨリなどと呼ばれる日本でいう玄関に相当する小部屋である。通風のために扉を開け放っていても中庭のプライバシーを守れる緩衝空間となっている。

②中庭(写真3)：住居の中心にあるチョウクあるいはアングンと呼ばれる中庭は、高密度な市街地の中で光と新鮮な空気を取りこむ屋外空間であり、祭祀・家事・家業・家畜飼育の場となる。

③ダラン(写真4)：中庭に面して段差や列柱だけで仕切られた半屋外の部屋。中庭/居室の延長として炊事や食事・休憩・団欒などさまざまに利用される。特に上層階に設けられたダランは住居の中で最も快適な空間である。

④居室：中庭とダランの周囲に配される各部屋の用途には寝室・居間・客間・台所・作業場・倉庫・祭祀室などがある。

⑤サービス機能：階段・トイレ・浴室・井戸などは、中庭を配した平面上で最も幅の狭くなる一面に集約される。

## 回住居と住まい方の特徴

外部に対しては、ごく小さく閉鎖的な玄関のみでつながっている点が目を引く。その一方で、敷地規模に制限が大きい都市住居であるにもかかわらず、住居の内部に屋外/半屋外空間を積極的に組み込んでいる。そして中庭に面してダランという半屋外空間を設けることにより、可能な限り室内と屋外とを連続させ、新鮮な風や光を得ようとする工夫が見られる。中庭は家族の共有空間であり、環境装置、作業場、時に接客空間でもある。実際の使用においても象徴的意味においても、住居の中心として位置づけられる。環境条件の悪い居室の扱いは相対的に低く、生活はあくまで中庭を軸に展開される。

高温乾燥の気候下においては風が抜ける日陰の屋外が最も快適な場所であり、高温多湿ではなおさらである。そのような気候への対応が、屋外の積極的活用の第一の要因だろう。屋上は夜間や暑期以外の昼間には、安全な屋外空間として活用される。雨期の対策を考えれば、屋根は勾配屋根とするのが合理的であるにもかかわらず、伝統的住居がみなフラットルーフなのは不思議であるが、これも住居の中に可能な限り開放的な屋外空間を

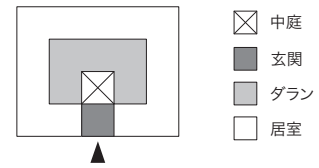


図2：ヴァーラーナシーの伝統的住居の空間構成モデル

設けたいという強い要求の表れだと考えれば納得できる。要するにセキュリティとプライバシーおよび日射に対する配慮から、外に対しては閉じた構えをとるが、内に対しては中庭を起点に最大限開いた構えをとっているのである。

以上のような空間構成を図式化すると図2のようになる。中心に中庭、その周囲にダランと玄関があり、さらにその周囲を諸室が取り囲むという非常に明快な、前回触れたヴァストゥ・プルシャ・マンダラにも似る同心円状の構成である。これはあくまで理想的な構成ではあるが、家の規模が小さくてダランや部屋の数が増えることはあっても、基本的に中庭は必ず設けられる。玄関が省略されることもほとんどない。そして、内部の諸室の使い方は季節や時間、家族形態や通風や日射などの環境条件、街路からの距離に応じて流動的に使用していくのが一般的である。たとえば居間になる部屋を大きく快適につくるのではなく、大きく快適な部屋が居間になるのである。固定した居間や食事場所がなく、暑期と寒冷期では寝る場所が異なることも稀ではない。

●今回は6月号掲載です。

## 東京工業大学大岡山キャンパス見学会

2月22日(金)、JIA静岡地域会建築ウォッチングが開催されました(参加者30名)。今回の目的地である東工大大岡山キャンパスには、70周年記念講堂(谷口吉郎)、事務棟(清家清)、百年記念館(篠原一男)といった有名建築家の作品があるに加え、ここ数年の間に、蔵前会館(設計:坂本一成研究室+日建設計)、付属図書館(設計:安田幸一研究室+佐藤総合計画 竹内徹研究室(構造))、環境エネルギーイノベーション棟(デザイナーアーキテクト:塚本由晴研究室 竹内徹研究室(構造))などが相次いで建てられました。

まずは百年記念館へ。篠原一男の代表作で20世紀を代表する建築の一つと言えるものです。竣工当時、これを見た近所の子どもが「ガンダム」と言い、それを篠原一男は喜んでいたという有名な話があるように、その外観は特徴的で、今や地域のシンボルにもなっています。

館内に篠原一男展示室ができたと聞いていたので、まずは2階の展示室へ。会議室だったものを2010年に展示空間へコンバージョンしたということで、一部が篠原一男コーナーになっています。ここでは、なんと、このデザインを担当した同級生の遠藤康一君と卒業以来13年ぶりに会うことができました(遠藤君は自身のアトリエを構えつつ、助教でもあり、博物館担当として館内に研究室があるそうで

す)。設計にあたっては、できる限りオリジナルの意匠の特徴を尊重し、そのうえで展示空間という新たな機能を付加することを意図したということで、壁の色などはオリジナルのものとし、展示ケースなどはあえて付加したものと分かるようデザインされています。

次は蔵前会館です。大岡山駅前ロータリーに面し、中の喫茶店やレストランは誰でも利用できるのも、ここが大学関係の施設とは気が付かないかもしれません。建物は周辺環境に配慮して分棟形式になっており、エントランスの大きな庇(パーゴラ)が全体にまとまりを与えるとともに、そこが広場ようになっていて、そのままキャンパスまでつながっています。キャンパスを歩きながら、「子ども連れなど、どう考えても学校関係者じゃない人がいっぱいいる」という感想がたくさん聞かれましたが、外部に開かれているというのは今の大岡山キャンパスの大きな特徴の一つです。

次は付属図書館です。正門を奥に進むと空中に浮かんだガラス張りの三角形が見えてきます(「チーズケーキ」と呼ばれているそうです)。地上部分にあるのはこのエントランスと学習スペースが主で、図書館機能のほとんどは地下化されています。本館前の広場をできるだけ残すためなのですが、コストと工期がかかるこ

とから国立大学で地下の建物というのはとても珍しいことのようにです。ここでは、設計者の安田幸一先生による解説も聞け、大変充実した見学となりました。

最後に環境エネルギーイノベーション棟です。最先端の環境エネルギー技術の研究を行うための建物であり、さまざまな省エネ技術や高効率設備が採用されています。屋根と外壁に取付けられた太陽光パネルと燃料電池により、棟内で使う電力をほぼ自給自足するなど、建物自体が環境エネルギー技術の実験棟となっています。

今回は、上記の4つの建物を中心に見学しましたが、例えば、緑が丘1号館の耐震改修(デザイナーアーキテクト:安田幸一研究室+竹内徹研究室(構造))では、新開発のエネルギー吸収型ブレース(新日鉄)を採用した耐震改修が行われているなど、ほかにも見どころがたくさんあります。地域に開かれたキャンパス、地下化した施設、クリーンエネルギーの積極的利用といった、国立大学での新しい取り組みが随所に見られる大岡山キャンパス、一度は見学されることをお勧めしたいと思います。



石橋 剛 | 石橋修建築設計室



左から、付属図書館、蔵前会館、百年記念館



「チーズケーキ」と呼ばれる付属図書館の学習スペース



付属図書館設計者・安田幸一先生の解説を聞く



## 室内環境や人に配慮した商品を紹介

2月20日(水)、アパホテル名古屋錦において2012年度第2回目のCPD研修会が開催された。本研修会では下記2社による得意分野を生かした環境やエコへの取り組みや、それに配慮した商品の紹介が行われた。

〈テーマ〉「環境・エコ・災害対策に向けた各社の取り組みについて」

〈講演会社〉株式会社イケダコーポレーション、日本ヒューム株式会社

〈参加者数〉JIA会員16名、賛助会員11名



講演の様子

### ①株式会社イケダコーポレーション

「スイス漆喰による  
快適で安全な室内環境の実現」

〈説明者〉 射場由次氏

現代の住宅には「安全・快適・省エネ」などさまざまなことが求められています。多くのことが求められている住宅環境に対して、自然素材でできているスイス漆喰はいろいろな場面で貢献することができます。スイス漆喰は100年以上の耐久性で効果の継続を実現しており、「漆喰の防汚性・カビ殺菌性」など室内環境の改善に役立つエコロジー性能を発揮しています。また、スイス漆喰は石灰石からつくられており、製造からあるサイクルを通して元の石灰石へと還る、地球にとっても優しいエコな材料と言えます。

#### ●スイス漆喰の特長

##### ・100年続く白い壁

低温焼成と3カ月の熟成により、クラックが起りにくく追従性に優れています。また、石灰純度9割以上なのでアルカリ強度が高く、100年の耐久性です。

##### ・強アルカリが健康を守る

強アルカリ性 (PH13) が、アレルギーを誘発するカビの発生を抑えます。また、においの成分となる有機物を分解するので消臭効果もあります。

##### ・夏でも涼しい

輻射熱が少なく、夏でも涼しい室内空間をつくれます。

##### ・簡単なメンテナンス

当然劣化はしますが、その味わいを楽しむこともでき、簡単に上から塗ることで元の美しさを再現することも可能です。

スイス・アルプスから生まれた「人にも地球環境にも優しい天然本漆喰であるスイス漆喰」を普及させることで、より安全で快適な室内環境の改善に貢献していきます。

### ②日本ヒューム株式会社

(株式会社環境改善計画)

「居住空間におけるオゾン脱臭」

〈説明者〉 野地晃司氏

世の中にはさまざまな「ニオイ」が存在します。中には耐え切れないような「悪臭」も存在し、それらは人々の生活に不快感・嫌悪感を与えます。「悪臭」とは悪臭防止法によって規定されており、その数も現在では22種に増えています。これらは、世の中がより快適さや安らぎを求める傾向が強くなったことの表れでもあります。

そのような「悪臭」を減らすために、効果的で持続性を持ち、効率性の良い脱臭法である「ディプラント脱臭システム」をご紹介します。

#### ●ディプラント脱臭システムの特徴

##### ・オゾンによる脱臭

オゾン脱臭は、これまでの主流であった吸着式脱臭のように、吸気ファンにより室内の汚れた空気を吸引し、活性炭やフィルターを通して臭気成分を除去する方法と違い、強力な酸化力により悪臭成分を全く違う物質に変化させます。

##### ・オゾンの安全性

濃度によっては人体に有害でもあるオゾンは、日本では許容濃度が決められており、それらを適切に管理することが重要です。ディプラント脱臭システムでは自然界で発生するオゾンと同レベルの濃度で人体への危険がなく、しかも脱臭効果を有する濃度で適切に管理されています。

##### ・3つの方式

セントラル配管型(従来型)、個別電気配線型(最新型)、ポータブル型オゾンデオドライザー(最新型)の3つの方式があります。昨今の動向では施工性・維持管理作業に優れる電気配線方式が増加傾向です。

より快適な居住空間の実現を目指して、オゾン脱臭を用いたディプラント脱臭システムの普及を進めてまいります。



深井裕之 | TOTO(株)



## 想像力を駆使し事故回避を

2月27日（水）、建築家会館の戸田支配人、損保ジャパンの風間副長をお招きし、建築家賠償責任保険（建賠）についての講習会を会員17名参加で開催しました。

前半は、戸田支配人より、建賠の歴史と仕組みについて解説していただきました。賠償責任保険は通常の火災保険や自動車保険とは異なり、特定の資格を有するものが独占的業務を行う過程で他人に損害を与えてしまった場合に適用される保険で、建築家以外、医師・弁護士・公認会計士など有資格者特有の保険です。JIAの建賠は建築家を対象とした保険としては最も古い歴史があり、1971年（昭和46年）に認可されました。以来、会員の要望や事故例などを踏まえて現在の保険内容となっていますが、今後も賠償内容は手厚くしていく計画とのことです。

後半は風間副長より、より具体的な保険内容や契約注意点についての解説がありました。JIAの建賠は、ほかの保険よりも保険料が高いとの声を聞きますが、内容を見ますと、オプションプランでは、構造設計などの業務ミスによる損害賠償（2010年4月より導入）、建築基準法・関係法令における基準未達に対する賠償（2013年4月より導入）があります。また、事務所廃業後に発生した事故に対する賠償（廃業後最長5年）も、JIA独自のプランです。

気をつけなければいけないことは、損害が発生した時期と保険契約時期との関係です。保険対象となるのは、建賠契約時期の1年前に引き渡した案件からで、かつ、保険は切れることなく継続して契約していることが大前提です。また、保険金額の算定は、設計図書引き渡し時点での契約保険金額と損害賠償請求された時点

での契約保険金のうち、低額の保険金額が採用されますので、保険保証金額（契約タイプ）を変更した場合は注意が必要です。

当初、講習会希望者が少なかったのですが、「建築基準法・関係法令における基準未達に対する賠償」が新しく導入される旨、メールにてご案内しましたところ、一気に希望者が増えました。ときどき新聞で目にする建築士の業務処分にも関係する保険内容ですので、関心の高さの表れだと思えます。過失であれば保険の賠償範囲になる可能性はあるのかもしれませんが（国は、故意の犯罪で、過失とは認めてくれないようですが…）。また、将来的には、クライアントとの個別の訴訟に対しての保障も、可能か検討中とのご説明でした。

1時間半の説明後、30分で予定していた質疑は10分ほど延長。建賠に関する講習会としては中身の濃い2時間になりました。

当日配布された資料によると、事故の多くは「設計者・管理者の経験不足と想像力欠如」「関係者相互の情報交換・意思疎通の不足」「調査・情報不足」「ケアレスミス」が起因しているようです。特に「ケアレスミス」に関しては「ディテールの大事さに気づかないで設計すること」とありました。設計が完全にCAD化して、ディテールはあちこちから切り張りできているようになっていますが、本当に理解して設計しているのか疑問です。十数年前、JIAのリフレッシュセミナーに参加した折、当時の穂積会長が「ディテールが大切です」と何度も言われたことを思い出します。ディテールを十分に考え、想像力を駆使して、起こりうる事象を検討するこ



講習会の様子

とが事故を回避する一つの道だと考えます。

お手元に更新・募集冊子が届いていると思いますので、内容をご確認の上、お分かりにならない点などがありましたら、建築家会館までお問い合わせください。

なお、ほかの賠償保険に加入されている方が、JIAの建賠に切り替えた場合、切り替え前の保険加入年度（別の保険に加入したのが10年前であれば、JIA建賠加入時から10年前の引き渡し案件が対象範囲）まで、保証範囲は遡るそうです。ただし、遡る保証内容は、ほかの賠償保険の保証内容とJIA建賠の同様の保証内容に限り、オプションなど、JIA建賠独自の保険は、加入から1年前までが対象となります。

今回、矢田室長のご尽力で、会場は名城大学名駅サテライトを利用しました。スクリーンやプロジェクターも完備しており、100名程度は無料で利用可能です。今後のご利用にご検討下さい。



見寺昭彦 | 三和建築事務所

## 栗生明氏「水環境と建築」

JIA 三重の恒例行事、建築文化講演会を2月23日(土)に、津市のアストプラザの4階アストホールで開催しました。また、これも恒例行事である建築展を、『三重の建築散歩』出版記念展覧会としてアストプラザ5階のギャラリーで同時開催をしました。

講師の先生は建築家・栗生明氏です。三重県では今年10月、伊勢神宮の御遷宮が行われる予定で、栗生氏はその外宮に建つ「式年遷宮記念せんぐう館」を設計されました。せんぐう館は昨年完成。今、三重県は栗生氏の話でもちきりです。昨年は10月のJIA 東海大会2012 in 伊賀で基調講演をされました。そして今年の8月には三重県の事務所協会でも伊勢会場で栗生氏の講演を予定されているそうです。

その栗生氏を津駅でお迎えに上がると、まっすぐこちらに歩いてこられ、ニコニコしながら「やあ、こんにちは」とよく通る、聞きやすい声で気さくにあいさつをされました。とても穏やかでやさしい方とお見受けいたしました。

講演テーマは「水環境と建築」です。外宮内の勾玉池を建築的に扱ったせんぐう館を中心に、水とかかわった建築を主題

に置いたテーマ設定をされたようです。昨年のJIA 東海大会2012 in 伊賀では、忍者で知られている歴史ある伊賀地方で開催されたので、その名にふさわしく「風土と歴史を継ぐ建築」でした。いずれも開催者側に配慮したテーマで栗生氏のやさしいお人柄が感じられます。

今回の講演の前段は水の話です。1961年の4月12日ポストーク1号・ユーリー・ガガーリンの「地球は青かった」の言葉から、「地球の表面積の70%が水」「人間は歩く水袋」など水の存在そのものを説明されました。続いて、「日本は温暖・湿潤」「水田＝スローな水デザイン」「森林」「水打ち」「牛井＝2,000ℓの水が必要」などのお話がありました。

講演会の時間も半ばを過ぎたところで「コミュニケーションツールとしての水」「水商売の系譜・カフェの誕生」「日本の茶室」といよいよ建築に近づいてきました。栗生氏の手がけた「浜名湖花博主用施設」「愛・地球博・バイオラング」「岡崎市美術博物館」「コアやまくに」の建築紹介です。ため池の水面が上がったり下がったり、床面から水がまっすぐ吹き出したり、壁から霧が噴射されたりと、水が、人

間にとって楽しみや親しみの要素として扱われています。

続いて、「長崎原爆死没者追悼平和記念館」と「式年遷宮記念せんぐう館」。木々に囲まれた水面に移りこむ光で、街中にもかかわらず静けさをつくり出しています。建築の前の水面に山々の風景を映しこむことで神秘性を高めるなど、訪れる人のところに訴えるように水を扱われています。これらには、周辺の町並み(自然)の様子→敷地環境→建築空間へ視点を移行して正確に設計を進められるスタイルが垣間見られ、ここでも栗生氏のやさしさが感じられました。よい建築をつくるには、周辺環境の洞察力、物質や現象の分析力、そして丁寧な設計スタイルが必要と、壇上から栗生氏に言われた思いでした。

講演会が終わった後、建築文化講演会、建築展、出版記念の合同懇親会を行いました。JIAのメンバーはもとより、栗生氏の講演会を予定している三重県事務所協会の方々も参加され、さまざまな意見交換が行われました。

時間も押し迫り、栗生氏を津駅までお送りすることになりました。津から帰るため名古屋方面に向かわれるのかなと思っていたら、伊勢に行かれるとのこと。講演会の休憩時間に三重県事務所協会と次の講演の打ち合わせをしたり、翌日は伊勢市で雑誌の取材をしたり、短期間の滞在中3つの仕事をこなす手際よさに、栗生氏の偉大さを感じるとともに、敬服の念を抱きました。



講演する栗生明氏



開演前の会場の様子



山下和哉 |  
建築デザイン研究所



## 歴史を語る建造物とまちなみ50選紹介

JIA三重地域会では、3月1日に『三重の建築散歩～歴史を語る建造物とまちなみ50選』を出版しました。本書は、地元タウン誌「NAGI」(月兎舎)に「三重の建物散歩」として連載したシリーズをもとに、新たな取材物件を加えた合計50件の建造物・まちなみで構成され、プロのカメラマンによる美しい写真と、5年間にわたるJIA三重会員自らの取材記事で、建築とまちの魅力を一般の人にも分かりやすくビジュアルに解説する内容になっています。

『三重の建築散歩』は三重県の建築の集大成であり、21世紀初頭の建築アーカイブとして出版するもので、この取り組みが必ずやこの地域の建築文化を広く伝えるとともに、一般の皆様の景観意識向上、および建築の質のレベルアップにつながるものと考えています。

### ■これまでの経緯

**2007年**：建築家カタログVol.3の代わりに三重の魅力的な建築やまちなみを一般の人に紹介する活動をしようということになり、以下の方針を決める。「地元タウン誌との提携で進める／写真はプロに依頼する／建築の魅力を一般の人に語るのは建築家が最適／小冊子を数年発行し、それをまとめて出版する／三重県内の建築のリストをつくる」。

**2008年～2011年**：320件余りのリストから、建築の種類、地域などを検討し50件

の取材先を選定。当初考えた小冊子の発行ではなく、タウン誌「NAGI」の連載としてスタートし、年4回、毎号4ページをいただいた。会員は地域別に、それぞれ思い入れのある建築物を自ら取材、執筆。取材には「NAGI」発行人の吉川和之氏、プロ写真家の川合勝士氏も同行した。写真は大判フィルムカメラで撮影していただいた。

結局、リストに縛られるのではなく、担当会員がいいと思う建築、書きたい建築に対してしか記事を書けないことに気付いた。ただし、いいと思う視点、書きたいと思う注目点はさまざまであったらう。

**2011年12月**：三重大レーモンドホールにて「三重の建築散歩展」を開催(26物件のパネル)。大学構内であり、同時開催の建築文化講演会参加者と三重大生以外の入場者は見込めなかったが、「NAGI」誌でモノクロ写真だったものを、カラーのA1サイズの写真にて展示した。長文の記事を丹念に読んでくださる来場者にご迷惑を感じ、「わかりやすくビジュアルに」がやはり大切だと認識。出版に際してはカラーページを増やすべきと感じた。

**2012年**：4年間の「NAGI」の記事、この間に取材と撮影を行った物件、出版をにらんだ「アーキテクトみえ」の“とっておきのまちなみ、里シリーズ”、さらに新たな取材を追加し、合計50件を整え、出版に向けた準備に入った。

出版資金はこの間の積立金だけでは到

『三重の建築散歩』  
(A4判)  
定価：1,500円＋税



底賄えないことから、買い取り協賛という仕組みをつくった。これは趣旨に賛同して下さる人(会員、非会員を問わず)にまとめて買い予約をしてもらうシステム。資金繰りは出版までにぎりぎり間に合った。

**2013年2月**：アスト津にて「三重の建築散歩展」を開催(50物件のパネル)

**2013.3.1**：『三重の建築散歩』出版。3,000冊印刷し、三重県内主要書店で販売中。

### ■出版して

『三重の建築散歩』は、三重の建築を年代順に並べることになりました。最初はジャンル別や地域別と考えていましたが、年代順に並べることで、素直に三重の建築の歴史を表現することになり、その建築の成立の背景を感じてもらえる構成になったのではないかと思います。

私はこの事業を進める地域文化情報委員として、ほとんどの取材に同行しました。このような機会がなければ、表層のことや本でしか理解していなかった建築の、成立の背景やかかわっている人々の様子、情熱、守っていくための努力を身近に感じることはできなかったように思います。つくづく建築は人の営みの結晶なのだと思います。建築の本質はそのようなものということ、単なる物質や一過性の流行のデザインではないのだということはこの本を通じてできるだけ多くの人に発信できればと願っています。



萩原義雄 | つくる研究所



左 | 旧小田小学校 中 | 熊野古道センター 右 | 越賀舞台

(写真は『三重の建築散歩』に掲載されたもの)



東海4県の学生対象

**第20回 JIA 東海学生卒業設計コンクール 2013**

6月1日公開最終審査

実社会で活躍する建築家と建築を学ぶ学生との交流の場をつくり、広く建築家の仕事を理解してもらうとともに、優れた後進の育成をめざす。第20回の節目を迎えた。

- 審査員 (敬称略・すべてJIA会員) 古谷誠章(委員長/早稲田大学教授・ナスカー級建築事務所)、鈴木幸治(ナウハウス)、廣瀬高保(中建築設計事務所)、山田高志(山田高志建築設計事務所)、川口亜稀子(Liv 設計工房)、植野収(石本建築事務所)

- 賞 金賞1点、銀賞2点、佳作数点
- 展示会 建築家の日(6月15日)の関連行事として5月28日(火)~6月9日(日)応募作品および入選作品の展示会を名古屋都市センター「まちづくり広場」(名古屋市中区金山 金山南ビル11F)で行う。

- 公開最終審査・表彰式・講評会・20周年記念座談会 6月1日(土) 名古屋都市センター「まちづくり広場」(大研修室)で開催。

- 問合せ JIA東海支部JIA東海学生卒業設計コンクール特別委員会事務局(〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル5F TEL:052-263-4636)

東海4県につくられた住宅対象

**第1回 JIA 東海住宅建築賞 2013**

5月1日まで募集、6月15日公開審査

愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の東海4県につくられた住宅(専用住宅・集合住宅など)を対象とし、各自が定めたテーマに対して特に秀でた住宅に対して贈る賞。

- 主旨 (抜粋) 現代建築に求められるのは、制度や経済に合理的なだけの建物ではなく、個々人の感性に訴える日常的な空間ではないか。東海における居住空間の質およびデザインの向上に貢献すべく、プログラム・空間構成・ディテール・環境への配慮・工法などさまざまなテーマの中から優れた住宅を募集する。

- 対象 ①施主、設計者、施工者に対して賞を贈る  
②専用住宅・併用住宅・戸建住宅・集合住宅等(新築・保存・改修)  
③最近3年以内(2010年4月1日から2013年3月31日までに)竣工したもの  
④確認申請が必要なものは検査済証の写しを提出のこと  
⑤東海4県につくられた作品  
⑥他の賞を受賞した作品、雑誌等に発表した作品でもよい  
⑦現地審査、施主のヒアリングが可能な住宅  
⑧応募点数は自由  
⑨審査員の関与した作品は応募できない

- 登録・応募 応募申込書(HPからダウンロード)に必要事項を記入し、応募料の振込み控えのコピーを同封の上、JIA東海支部事務局に郵送。

- 応募資格/設計者
- 応募期間/4月1日(月)~5月1日(水)

- 提出 ○建物概要、設計主旨 800字以内  
○図面(配置図・平面図・断面図その他必要と思われるもの)縮尺自由

○写真 ※以上をA1パネル縦使い1枚にまとめ提出、現地案内図は別紙にて提出、パネルデータ JPG形式(6932×9839ピクセル程度、120MB程度)、設計主旨のTEXTファイルはCD-Rで送付

- 応募料 JIA会員/1点につき2万円 会員以外/1点につき3万円  
○振込先ゆうちょ銀行

口座番号 00890-9-16208 口座名 社団法人日本建築家協会東海支部

※通信欄に「東海住宅賞2013応募料」と記入。

- 審査方法 第1次審査(公開) 6月15日(土)名古屋大学ES総合館ESホールにて応募者全員がコンセプト発表~同日結果発表。第2次審査は7月に現地審査、同月末入賞発表予定。

- 表彰 大賞1作品、優秀賞2~3、奨励賞2~3。大賞と優秀賞には記念品贈呈。表彰式は8月に行う。

- 提出先 JIA東海支部事務局(〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル5F TEL:052-263-4636)

- 審査員



審査員長 | 横河 健氏  
日本大学理工学部建築学科 教授  
横河設計工房主宰 建築家  
日本建築家協会会員



審査員 | 伊藤 恭行氏  
名古屋市立大学芸術工学部教授 建築家  
CAn (C+A名古屋)  
日本建築家協会会員



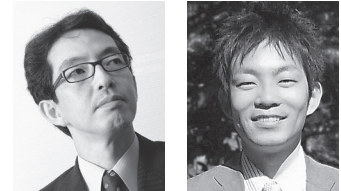
審査員 | 藤原 徹平氏  
横浜国立大学大学院准教授 建築家  
フジワラボ主宰

## 浜松信用金庫湖東支店



[日建設計]

村井 達也  
鳥海 宏太



このたびはJIA 優秀建築100選に選定いただき、光栄に存じます。

これからの金融店舗に求めること／浜松信用金庫様（以下浜信）からこの仕事をご下命いただいた際の要望は、ユニバーサルデザイン、地域との連携、省エネルギー、従来型店舗からの脱却でした。私がこれまでいくつかの金融機関本支店設計の経験を通じて得たテーマは二つ、一つは、支店は金融機関の広告塔としての役割を持つこと。もう一つは、多くの支店を所有する金融機関にとって、これから新築する支店のエネルギー消費低減の積み重ねが金融機関全体の負担の低減につながり、低炭素化への貢献にもつながるということです。

エネルギー消費50%超の削減を実現／湖東支店は太陽光パネルを前面に並べることで、広告塔としての役割と環境性の両立したデザインとしました。太陽光パネルの費用対効果は発展途上段階ですが、クールヒートトレンチや自然通風、LED照明など、実績のある環境技術を組み合わせることで、竣工1年間の調査で一次エネルギー消費量が対既存店舗比約63%削減という、想定以上の結果が得られました。

東日本大震災から学ぶ／湖東支店竣工直前に発生した東日本大震災を受け、地元メディアは「災害時に自立できる建築」として紹介しました。金融機関は顧客の大切な財産を守る役割を持つと同時に、震災時の自立機能を持ち、近隣住民の安全確保に貢献する役割の必要性を改めて感じました。我々の提案を傾聴し、実現に導いて下さった浜松信用金庫様はじめ建設関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。（村井達也）

# JIAの建築賞 決定

2012年度のJIAの各建築賞が決定した。日本建築家協会優秀建築100選（日本建築大賞、日本建築家協会賞）、JIA新人賞、JIA25年賞、JIA環境建築賞のうち、東海支部会員が受賞した作品と、設計者のコメントを紹介する。2012年度の審査委員は、斎藤公男（日本大学理工学部名誉教授）、三宅理一（藤女子大学人間生活学部教授）、大森晃彦（㈱建築メディア研究所代表）の3氏だった。

日本建築家協会優秀建築100選

じょうろ  
如雨露



[アトリエ祥建築設計]

鈴木 祥司



この敷地は緩やかな丘陵地にあり、かつては自然豊かな景観であったことを思わせる地形である。日の光・影・気温・風・雨・雪などの自然の営みのうち、雨垂れの風情と風を視覚化させることで季節を感じて暮らせる家づくりを試みた。

樋のない軒先からの雨垂れが季節によってそのときどきの風情を感じさせ、冬の雨・夏の雨は風土を感じさせる。わずかに残った既存の竹林の葉が舞う景観、ケヤキの大木の葉が若葉で揺らぐときや枯葉となって大地に舞う景観には、自然のすばらしさと豊かさがある。住まいの中から庭と一体化することが感じられるようにガラスの大開口とし、外の景観が室内に溶け込んでくるような様となった。既存の竹林は周囲のマンションからの視線を遮り、ケヤキの大木は西日を遮り、道路に面した横格子もほど良く西日を遮りつつ夕陽を楽しむことができる。南東から吹く風通しを良くし、とても高く長い軒先は冬の陽を取り入れつつも夏の陽を遮り、1年を通して居心地の良い住まいとなった。

街路や周辺に向けて元からあった傾斜地の地形の豊かな起伏を表出させることと緑の景観づくりをすることで、住み手だけでなく道を歩く人や近隣にも季節感と安らぎを与え、植物・光・風・雨などの自然を住空間に取り込むことで住宅自体も季節をまとうことができた。

自己本位的なことだが、雨をデザインできたことがもっとも嬉しく、次は違った雨のデザインができないかと考える。風のデザインも、また写真家・木村伊兵衛のようなしっとりとした光と影のデザインも。

JIA 環境建築賞 住宅部門 優秀賞

母の家



[ワークキューブ]

平野恵津奈

吉元 学



JIAが主催する環境建築賞なので機能や性能だけで審査されないとは思っていましたが、審査のときに強調してお伝えしたのは、「環境」に「自然環境と人間環境」があるとすれば、この家は「人間環境」に特に留意して設計した点でした。

竣工後、東日本大震災が起これ、「人と人との絆」が再認識されるようになりました。この家は時代の流れに乗らせていただき、「身の丈以上」の多くの賞を頂きました。実際には時代の変化が始まっていたところに震災が起これ「大きなキッカケ」となったように、この家は私が震災前から疑問に思っていた「現代の家」に対しての解答になりました。

それは、人から「家」が離れはじめていることです。家は人と人をいろいろな意味でつないできたのに、今では分断されようとしています。また「環境」という言葉が一人歩きをして、人をないがしろにしはじめています。これらは人が自ら招いている悲しいことです。皆さん！もう少し自由に、もう少し気楽に自分で家を考えていきませんか。

現地審査には小玉祐一郎先生、安田幸一先生にお越しいただき、直接貴重なご意見を頂きました。また、横浜での公開審査では宿谷昌則先生より愛情のこもった厳しいご意見も頂き、今後共、環境問題に対して精進していかなければと思いました。

大変貴重な経験をJIA環境建築賞にさせていただきました。

関係者の皆様、ありがとうございました。(吉元 学)



### 組織は単一会として新生、より「地域」主体に

長年の検討を経て、JIAは組織として公益に向かうことが2010年9月の臨時総会で決議され、この時点でJIA内部の合意が形成されたことになりました。ここまで来るには、本部の意向に必ずしも支部や地域会がすぐに足並みをそろえるには至らず、すり合わせには紆余曲折ありました。しかし、最終的にはこの総会決議という手続きを踏んだうえで、それまでの「社団法人」から、「公益社団法人」として内閣府に認められるための具体的行動に出ることになったわけです。以後、定款の改定に始まり、規程類の改定などの作業を経て、今年の2月1日付で公益社団法人への移行認定の手続きにおける適合性が認められたため、4月からの移行が確実に現在に至っています。

1987年に創設されたJIAは、本部、支部、地域会からなる大きな全国組織として、25年間、各地域の中で独自に進化してきました。そこでは「建築家」という共通言語を唯一の拠り所として、職能意識を説いて、それをもとに全国組織でありながらも各地域や支部によって行動規範の解釈に温度差があったと思います。それだけに本部に必ずしも報告義務のない自由な活動の中で、地域間において特色を持ちつつも、目的意識において格差が出やすい性格も同時に併せ持っていました。

そんなJIAが全国組織の単一会として、明確な行動規範の下に、「公益法人」化を機に新たにスタートを切ることになったのです。一番混乱したのは、地域に根付いた活動こそを本分としていた支部、地域会だったと思います。JIAを公益法人化したら、支部地域会から底上げしていくJIA独自の構図が失われるのではないかと。

しかし、そんな声にも芦原会長が明確

に言い放った言葉がありました。「本部は会全体のガバナンスを行う一方で、活動の主体、軸足は支部、地域会に移す」。

単一会という言葉や概念は、上から下への強烈的な管理型ピラミッドをイメージするかもしれませんが、それを芦原会長は、運営と事業とを切り分けて、JIAが歴史的に持ち続けた特性をさらに強化する方向で、表現したのです。

こうして、「公益法人」としての単一会と建築家の持つ「地域性」とをリンクさせたところに、新生JIAの姿があるわけです。しかし、実際に公益法人として運営していくには、内閣府の定めた要件に適合しなければなりません。例えば公益目的事業比率は50%を超えなければなりませんし、会計も本部、支部、地域会まで一本化された統一のものになるわけです。今までのような、本部も知らない事業は原則存在せず、すべて事前に計画されたものを本部が承認し、そのうえで行動に出ることが基本になると考えないといけません。

もう一つ重要なことは、既成の組織を単一会として再構成していかなければならないことです。つまり、本部と支部の役割を明確化し整理することです。

具体的には、複雑で多岐に展開され、收拾のつきにくくなった**本部の委員会の実体の解消**があります。委員会構成を一旦ゼロベース化し、構成し直すことを現在、行っている最中です。整理の考え方としては、やはり芦原会長が分かりやすい例えで、説明しています。

「小さな本部を目指すためには、本部は単一会としてのガバナンスにこそ重きを置き、支部に機能を移管することが必要となります。では、本部に残すべき委員会と

東海支部長 鳥居 久保



は何か。国が行う最低限必要な役割として「外交」「防衛」「社会保障」があるように、JIAでそれに相当するのは「社会貢献」「組織維持」「会員サービス」の3つでしょう」。

この考え方の下に、「社会貢献」には職能、公益事業、国際事業各委員会、「組織維持」には財務・会計、総務・事務、フェロシップ各委員会、「会員サービス」には業務改善、教育・表彰、広報・アーカイブ各委員会として編成し、そのほかの委員会は支部ミッション、地域会ミッションに分類され、支部や地域会に移行して存続させるべきとしています。

また、**会長選挙**については、公益化の中では、理事の中から会長が選ばれることが求められます。現在は会員の中から直接会長を選出する手法をとっているため、会長候補はまず理事である条件を満たすことが必要です。これを踏まえ、現在エレクト制などの選挙制を総務委員会で検討中です。

さらに、**表彰制度**においては、現在JIA本部が行っているものに、「優秀建築選」「新人賞」「環境建築賞」「25年賞」の4本があります。公益化の中では表彰事業は基本的に会員枠を外し、一般の設計者に広く開かれた賞にすることが、原則になると思います。

このように、公益法人化は、長年のJIA組織を単純化しつつ、新たな規範を与え、その結果かなり整理された印象の中で、会員の活動をその分、際立たせるものだと思っています。地域会との連携の中で、コミュニティアーキテクトとしての会員の活動をサポートできる体制の強化のためにも、支部の役割は大きくなり、権限も増すと思います。これからのJIAに期待していただきたいと思います。

## 準会員制度の設立と新々会計基準への移行が課題

東海支部総務委員長 服部 滋



JIAは、いよいよ4月から公益社団法人となります。移行に伴う大変な作業は、**規定類の整備と会計の変更**です。

**規定類の整備**は、大方針となる定款が2011年9月臨時総会で、会員規程および会費規程が2012年5月の通常総会で承認されました。支部と地域会の活動の元となる支部規程、地域会規程は2012年度9月理事会で決定されました。

総会以後、支部、地域会において、支部総務委員会を中心に、支部規約、地域会規約、各地域会規則の検討がなされてきました。3月初めの支部役員会での承認を得て本部へ報告され、4月の理事会で成案となります。しかし、支部規約（従来は支部規定）や地域会規則（従来は地域会規定）の変更はそれぞれの総会の承認事項であるため、2013年度の総会での承認を得て成立することとなります。

東海支部では、従来の規定の条文に書かれた考え方を残す前提で、新法人対応部分の書き換えを行いました。結果、支部における地域会規約設置はやめ、従来通り地域会規則を重んじる形となりました。今後は支部、地域の役員選出規則を総会承認に向けて整備していきます。

変わった点は、**準会員制度の設立**です。準会員のうち、正会員のOBであるシニア会員と専門会員については支部に設置、正会員予備軍のジュニア会員、学生会員と個人、法人の協力会員は各地域会の独自色が出せるように地域会単位で設置することとなりました。どちらにしてもガバナンスの問題もあり、地域会役員会承認後、支部役員会、理事会の承認を得て入会となります。東海支部では、今のところ協力会員の移行は行わない、準会員制度を4月からすぐ実施する動きはなく、

順次整備していく模様です。

もう一つ変わるのが**会計**です。一般社団法人を選んだ場合でも、事業別の会計となる新々会計基準への移行は必要となり、公益社団法人を選んだJIAは、全体事業費における公益事業費の比率を50%以上維持しなければなりません。そのため、事業費支出を常時管理するためもあり、数年前からPCA ネット会計を導入し、試行してきました。昨年夏の事務局会議では、第1四半期分の支部会計を10月末まで、第2四半期を12月までに地域会合算で入力することが申し合わされましたが、本部会計担当の原田さんが公益法人申請作業に時間を取られたからか、遅々として進まず、新々会計を採用して決算準備をしているのは東海支部だけという惨憺たる状況です。建築家といわれる人は数字を扱うのが苦手なのか、新しいことへのチャレンジをいやがるのか、本部会計が苦しいのに、とても地域会会計などできないと、現在（3月初め）、支部、地域会会計も含めて外部委託を検討しています。

新々会計への移行が決まった頃、本部総務委員会会計WG主査であった私は、その後一足早く公益社団法人に移行した愛知建築士会の総務委員や名古屋中支部長を偶然経験することになったこともあり、事業別の会計シート、つまり愛知地域会での役員会へ承認依頼で提出する事業報告書を事業ごとに作成すれば、事業会計部分の会計入力スムーズに行うことができるので、あとは日々の管理会計だけで小遣い帳程度の知識で十分対応できるのと思うばかりです。

**会費**は、正会員は本部で徴収しますが、会員管理の一部は支部で受け持つことになり、督促作業の手伝いは従来通り支部

の仕事となります。また準会員、協力会員の会費徴収は支部単位で行い、入金したものを一括して地域会に渡して管理してもらうこととなります。これもガバナンス強化ということだそうです。今回の変更でも、支部単位で取るのは会費であり、支部会費と呼んで、本部会費規定に掲載。地域会単位で集めるのは、会費ではなく地域会運営費と呼び、地域会単位で任意で決めることとなります。

新々会計移行で先行し順調に推移しているかと思われる東海支部事務局でも、今年には大きな問題が発生します。いよいよ退職を迎えられる安田さんの後任の選任と引き継ぎです。さらに2014年3月は、役員改選で支部長も交代します。後任の推薦、不慣れな新事務局員のカバーなど会員の皆さんにお願いすることも多々出てくると思われていますが、よろしくお願いいたします。

さらに大きな問題は、**支部運営費の枯渇**です。会費値下げ以降、蓄えを運営費に回してきました。2013年度は支部事務局運営の強化を目的に、本部からの支部運営費が80万円ほど増額され、一息つきました。しかし、今までの事業の協賛金や広告費が減少する中、今年には東海住宅建築賞が創設されます。資金計画を一つ間違えれば重大な事態を引き起こされることも考えられるので、応募数や資金集めににらみながらの新規事業立ち上げとなります。場合によっては、支部事業の抜本的見直しや、支部運営費の徴収も検討課題となってくると考えられます。



建築家に責任はある

## 原発事故は私たちの事故 建築や社会を変えていく提案を

JIA 神奈川 みかんぐみ 竹内 昌義



山形エコハウス

建築の未来を予測するという「HOUSE VISION」という展覧会に行った。会場構成から展示に至るまで、よくデザインされていた。ただ、よくデザインされた展示は焦点の合っていない映像のように、私を持っているリアリティとの間に距離があった。その中で興味深くおもしろかったのは、蔦屋書店とOPEN A が企画した「編集の家」である。

「現在、日本にあるストック5,600万戸を自分流にカスタマイズしよう」。ストックが5,600万戸あることが大きく掲げられ、その対処方法を展示したものだ。80㎡のマンションのような一室を800万円で購入する考え方。大きすぎるテーブル、テレビの前のバスタブや巨大な2段ベッドのような部屋、可動式の書斎など、何となくあったらいいというものが並べられている。そのまま実現できるわけではないが、可能性を極端なバリエーションの一部として提示する。ロジカルに前提条件を整理し、分析し、具体的な例題に答えるスタンス。現実を受け止め、そこからのストーリーを展開していく、そこに共感を覚えた。

2年前の3月11日の東日本大震災は、その被害だけではなく、私たちの社会システムのさまざまな問題点、矛盾点、困難など、曖昧なカタチでぼんやりしていたものを非常に明確にした。エネルギーの問題、ものごとの決定プロセス、地域社会の問題、高齢化、人口減少、過剰なストック、などである。これらは緊急を要する直近の問題である。対処が遅れると手遅れに

なりかねない。建築にも密接にかかわる問題だ。311以降、いろいろな局面で、そのリアルがないと共感できにくくなっている。

特にエネルギー問題はそれまで意識していなかっただけに、こんな脆弱なシステム、原子力ムラなどの硬直性があったのかと愕然とした。福島原発事故は、まさに日本の社会のシステムが起こした事故である。全く知らない外国の誰かが起こしたのではない、私たちの事故である。社会人として30年近く過ごしてきた私にもその責任はある。

では、建築家としてはどうだろうか。そこには連続性があるのか、ないのか。責任があるのか、ないのか。私は建築家には大いに責任はあると思うし、問題は連続しているのだと思う。社会のさまざまな事柄をロジカルにブリッジすべきだと思う。単純にいうと、原発の事故を建築の問題としてとらえ、建築や社会を変えていく提案をするべきだろう。建築家にはそれができる能力があると思うのだ。

日本の運輸や工場などで使われる総エネルギーのうち、40%が建物で消費される。電力にいたっては70%が建物。したがって、単純に建物で使っているエネルギーを減らすことが求められる。日本の建物の器としての性能（断熱性）はかなり低い。ヨーロッパで20年前後に法制化されるカーボンニュートラルハウスに比べると、実に2～3倍くらいの熱量を使ってしまう。簡単に例えるなら、アメリカの自動車が、日本のクルマに比べて燃費が2～3倍であることと等しい。クルマの場合

は、車体の重さと燃費が直結するが、建物では断熱材の量が関係している。つまり、日本の住宅には従来100mmほど入れていたものを300mm入れなくては行けない。そういう家をエコハウスと呼ぼう。

さて、ここまで書くと、「それは東北の話」あるいは「高断熱・高気密は日本の風土に合わない」という感想をお持ちの方が多いのではないだろうか。申し訳ないが、そこには随分と多くの誤解と無理解がある。

**誤解：**ヨーロッパと日本は気候が違うので、同じにしても意味がない。

**訂正：**それはそうだが、全く同じにするのではない。断熱材の量に関しては、コンピュータシミュレーションで最適値を出す。各部材の熱貫流率だけではなく、その土地の気候データも入力するので、土地に合わせた条件でデータを判断できる。

**誤解：**高断熱・高気密には問題があるのでは。

**訂正：**以前、日本で高断熱・高気密がはやったときには、窓が小さく通風が確保されていないという印象だった。現在は開口部の性能が上がってきているので、高断熱・高気密にしても大きな問題はない。また、息苦しいという人がいるが、それも大きな誤解である。クルマに乗って、息苦しいという人がいるだろうか。空気が汚れたら換気をすれば良い。もちろん法定換気量は満足している。高性能なエコハウスは熱交換を高効率にする第1種換気扇を備える。そもそも換気をしたければ窓を開ければよい。





同 内部



HOUSE-M



同 内部

**誤解：**断熱を優先すると、自然と切り離されるのではないかと。

**訂正：**逆である。エコハウスで大事なのは、日射と通風を最大限利用することである。通風させるには窓を開けなくては行けない。住人が積極的に室内外の気温を把握し、調整する必要がある。少ない熱量で制御可能にするために、より敏感なコントロールをすることになり、自然に対してはよりコンシャスな状態がつけられる。

**誤解：**気密層は必要か。

**訂正：**気密層は壁体内の内部結露を防ぐ上でも、非常に重要である。

**誤解：**夏は暑いのではないかと。

**訂正：**暑くない。熱がこもって暑いなら、窓を開ければいい。窓を閉めていても暑ければ冷房をつければいい。エコハウスだからといって暑くならないわけではない。

以上のように、断熱性と気密性に対する誤解は枚挙にいとまがない。

一方で、日本の建物は高齢者にとって健康上危険な状態にある。暖かい部屋と寒い部屋の温度差（ヒートショック）で1万人を超える人が救急搬送されるという。さらに高齢化を迎える私たちの社会では、住居は部分暖房ではなく、全館暖房にしていかななくては行けない。

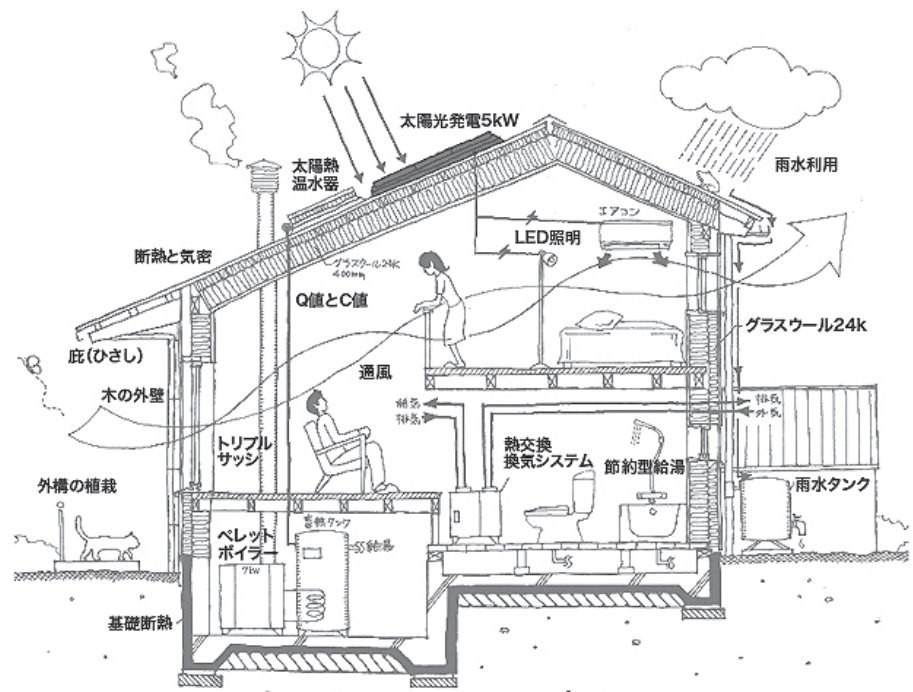
もう一つ議論になるのが、「エネルギーはエネルギーの問題、建築固有の問題は文化であるので、一緒に議論するのはおかしい」ということである。私は特にエネルギー問題を連続的にとらえることが、建築が発展していける包括的な問題であ

ると認識している。いくつもの複層的な物事をパラレルに進められるのは建築家が得意な分野だ。一方、この問題を別に考え始めたら、建築家は社会的な存在ではなく、伝統芸能の家元のようなものになってしまうだろう。あるいは、最後のカタチの仕上げだけをする人になってしまう。私は連続的に考えたい。

以上のことは、私の仮説に則った提案である。これらをどう解くのか、さまざまな回答があるはずだ。いずれにしても答えは一つではない。オルタナティブな議論も受け入れたいし、協力し合いたい。そ

うやって、建物で使うエネルギーを収支上ゼロにして、限りある、でも、豊かな日本の建物の新しいあり方を探りたい。ここまで思うのは、次世代に、原子力発電やそれが生み出す核廃棄物に怯え心配しながら生活させたくないからである。

最後に、この文章を題材にして、各所で議論が起こることを望む。ご不明な点があれば問い合わせをいただき、それに積極的に答えていきたい。もし、それでも疑わしいなら、百聞は一見にしかず。高性能な本物の山形エコハウスをご覧いただくのがいいと思う。



図解：エコハウス

## 「明日の公共劇場を、デザインする」ために 世界劇場会議国際フォーラム2013に参加して



鈴木利明 | 日本設計



セッション1の様子

2月8日(金)・9日(土)の両日、愛知芸術文化センター(名古屋市)12階アートスペースで、「世界劇場会議国際フォーラム2013」が開催され、うち1つのセッションのコメントーターを要請されたこともあり、2日間通して、真の「公共劇場」を希求する熱気の中に身を置いた。世界劇場会議は今回で20年目を迎え、脈々と、またあまねく「劇場」を世に問うてきた。私自身は多くの公共施設や複合施設の設計に携わってきたが、「劇場」専科の会議には初参加となった。

今回のテーマ「明日の公共劇場を、デザインする」は、昨年から継続する目下の最重要課題であり、昨年は「公共劇場」そのものの存在基盤を直視する議論が先行して、日本における「公共劇場」はいまだ存在していない、と結論づけられた。今回はその問題提起を引き受けて、「公共劇場」の輪郭をデザインしようとするものであると、衛紀生実行委員長は挨拶の中で表された。

初日8日の開会式に続く基調講演では、最初にマギー・サクソン氏(英国キーシアター・ピーターバラ経営監督/劇場コンサルタント)から「コミュニティとのかかわり—これから進むべき道」との表題で、劇場が真にパブリックなものになる～コミュニティのあらゆる階層と安定した関係を築くための、各都市での取り組みの紹介・提言を受けた。次に、今回の実行委員長でもある衛紀生氏(可見市文化創造センター aLa館長兼劇場総監督)から「急がなければならない。いまこそ「公共劇場」を。」との表題で、劇場の社会的使命～公共劇場の経営ミッションへの熱い思いが示された。

続くセッション1-1～翌日の1-2は、「公共劇場を、デザインする」という共通テーマでの連続展開企画であった。壇上のパネラーの方々も共通で、基調講演のお2人に加え、英国から劇場経営総監督と公的演劇ディレクターのお2人、地域の公立劇場活動を代表してのお2人(静岡県「グランシップ」田村館長と松江市「しいの実シアター」園山アートディレクター)の計6名、衛実行委員長以外すべて女性というのも、このテーマの実践現場の象徴性を感じた。

壇上からの熱いメッセージが、会場を巻き込んでさらに熱い熱い議論となり、「Public Theatre」でなく「Community Theatre」を目指すこと、「劇場とまちのありよう」の視点がキーワードとして異口同音に強調された臨場印象であった。

セッション2では建築家のフィールドにテーマを移して、「公立文化施設の建設手法—最新事例を通して」。JIA愛知会員でもある川本直義事務局長の司会進行で、最新事例を、香山壽夫建築研究所の長谷川祥久氏と岡山理科大学教授の平山文則氏から紹介講演の後、コメントーターとして私・JIA愛知会長の鈴木と空間創造研究所代表の草加叔也氏を交えての(ややクールダウンした?)議論の場となった。

公立文化施設は公設公営の従来方式に加え、官民協働や一括事業化のPFI、特定業務代行制度など新たな建設方式が目立つ。そんな中で、設計者の独立性と責任の確立、設計プロセスでの民意検証が必須であり、人が集まり心地よい交流ができる「公共」をデザインする建築家魂を今こそ取り戻すべきだと意を新たに2日間であった。



英国からの講師陣



セッション2のディスカッション(中央が筆者)



最新事例のパネル展示

写真提供: 世界劇場会議国際フォーラム2013実行委員会



## 「木愛の会」公共木造建築見学会 地域材利用木造小学校の完成と建て方現場を見る

田中英彦 | 連空間都市設計事務所  
木造都市研究会「木愛の会」代表世話人



「木愛の会」では、公共建築物等木材利用促進法を受けて、「公共建築の木造化に向けて」の提言などを活動の柱の一つにしています。3月4日、東三河の地域材を利用して建てられた小学校2校の見学会が行われました。参加者は24名でした。

名古屋から車で第2東名道に入り、浜松いなさICで降りると10分ほどで、のどかな山里に建つ杉下見板張りの黄柳川(つげがわ)小学校が見えます。廃校跡に統合され建設された小学校で、児童数70名6クラスの小ぢんまりした規模です。設計監理は東畑建築事務所、大断面集成材の加工製作は銘建工業(岡山)、施工は地元ゼネコンのJVです。敷地面積9,241㎡、延べ床面積3,125㎡、木造一部RC造2階建て、最高高さ9.521m、都市計画区域外です。道路に沿って、素通しの木製建具で仕切られた、スギの無垢材の優しい雰囲気の建物があります。統合で遠距離通学になった子どもたちのためにつくられた、通学バス待ち合い所とのこと(写真1)。

大断面集成材筋交いによって耐震壁を少なくし、開口部が自由に取れているのが特徴で、S造のブレース構造の木造版というところ。1,000㎡ごとに区画すると耐火要求がクリアされるとのことで、中間部に階段棟がRCでつくられていましたが、違和感を覚えました。生徒数から教室スペースが少なく、その他の管理や、地域住民の多目的スペース(写真2手前の丸い建物)が多く、地域に根づく教育施設と感じます。

内部は、スギの無垢材表しで、とても優しく癒されます(写真3)。「発注側の希望はRCだったが、木造との比較データを作り説得した。初めての木造建築ということで難儀の連続だった」との設計者の言葉を聞き、フロンティアスピリッ



写真1:黄柳川小学校 通学バス待ち合い所 写真2:黄柳川小学校 グラウンド側から見る

トを次に繋げてほしいと思いました。ただ、伐採した地元材を静岡で乾燥させ、岡山で加工して現場の新都市に搬送されたとのことで、ウッドマイレージの視点では遠距離の搬送は気になりました。

道の駅で昼食を済ませ、約30分山間の自動車道を移動すると、花祭り会館の北側に建設中の東栄小学校に着きました。設計監理は伊藤建築設計事務所、大断面集成材の加工製作、施工会社JVは黄柳川小学校と同じです。児童数121名6クラス。敷地面積11,373㎡、延床面積2,856㎡、木造一部RC造2階建て、最高高さ7.125m(屋内運動場11.23m)、都市計画区域外です。設計者でJIA会員の澤村喜久夫さんたちが説明してくださいました。ゆったりした敷地の北寄りに6月下旬完成予定で、建て方中や施工準備中の平屋の校舎が並び、東側に屋内運動場が施工中です(写真4)。

構造を見るにはうってつけの段階で、まず目に付いたのが、耐震壁の上下に入った集成材筋交いでした(写真5)。黄柳川小がブレース構造なら、こちらは洋小屋軸組工法。開口部の位置は制限されますが、まさに少々の地震ではびくともしない耐震性を感じます。データを見ると材積の多さに頷かされます。スギ材に癒されながら、施工中の屋内運動場に入ると900×180の集成材の列柱がなかなか壮観。木材調達の流れを見ると、実施設計中に地元材伐採、見積もり、確認申請中に製材、乾燥、集成材製作・加工して、伐採から約1年後に建て方工事と知り、設計者、木材流通、集成材加工、施工関係者の労苦と、完成を見たい思いを抱きつつ帰路につきました。



写真3:黄柳川小学校 スギの無垢材表し



写真4:東栄小学校 ヘルメットを着用して見学

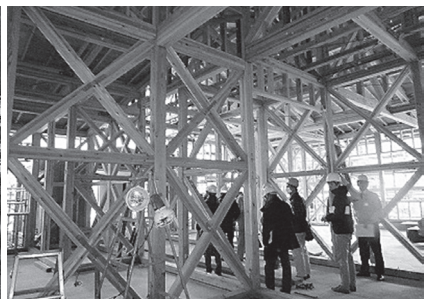


写真5:東栄小学校 耐震壁に集成材筋交い



玄関



玄関の間



上段の間



■紹介者コメント

伊豆国の一宮、三嶋大社に参拝し、足を東へ進めると三嶋曆師の館へと至る。三嶋曆を代々発行してきたと伝えられる河合家(社家の旧家)の邸宅である。安政の大地震(1854年)で母屋が倒壊した後に、葦山代官江川太郎左衛門の計らいにより、十里木(裾野市)の関所を解体、移築された建物。特色のある瓦で葺かれ、正面に起り破風付の式台玄関を備えた木造平屋建て、漆喰塗りの真壁造り。

この建物を河合家から寄贈されたのを機に、三島市はせせらぎ事業の一環として、耐震補強を施し、壁を白く塗り替えて、平成17(2005)

年4月から曆の歴史・文化に親しめる場として活用できるようにした。玄関の間は11帖あり、天井も高くなっている。右に控の間、一段と高い上段の間となり、その奥に展示スペースへと続く。三嶋曆の関連資料や三島茶碗が展示され、ボランティアによる説明も受けられる。

大安とか友引という六曜は日常生活に今でも深く結びついている。多くの伝統行事は月とのかかわりが深い旧暦時代に生まれたものであり、各地のお祭りが十五日に多いのも明るい満月の下で催したからのことと思われる。

明治5(1872)年11月9日付の太政官布告によって、12月3日を太陽暦の明治6(1873)年1

月1日に定めることが通達された。旧暦の1年12カ月では354日となり、太陽の周期より11日ほど短い。これを調整するため、2~3年に1度13カ月とした。これだと日付を見ただけでは季節が分かりにくいので、太陽の動きに合わせて季節が分かるようにしたのが、立春から大寒までの二十四節気である。今でも広く使われ、春分・清明・穀雨など季節の移ろいを感じさせてくれる。

所在地：静岡県三島市大宮町2-5-17  
TEL 055-976-3088  
毎週月曜日・年末年始休館 入館無料  
登録番号：22-0113

山田正博 | 建築計画工房

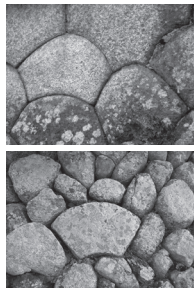


データ発掘 (お気に入りの歴史的環境調査)

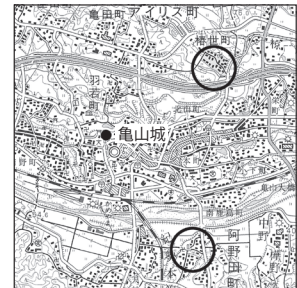
九々五集



碁世 (左と中上の写真)



河原田 (中下と右の写真)



■発掘者のコメント

「亀山モデル」で名を馳せた亀山市だが、一私企業の消長に翻弄されている感もある。もともと亀山は鈴鹿峠越の地勢により古来東西交流の結節点であり、重層的に歴史的集積度が高い。交通では旧東海道が通り、関宿内では東西に追分があり、東海道を介して伊賀・伊勢にも通じていた。近年においては関西本線が通り、今日では、東名阪や第二名神も接続し活況を呈している。

また、古くはヤマトタケルの伝説も残る。亀山駅前前で我々を迎えてくれる大鳥居はヤマトタケルを祀る能褒野(のほの)神社の一の鳥居であり、

神社のわきにはヤマトタケルの墓と比定される王陵もある。時代は下って県指定史跡の多間櫓とその石垣が残る亀山城、合併により編入された重要伝統的建造物群保存地区に選定されている関宿などの豊富な歴史遺産を有している。平成20年には金沢市、高山市、萩市、彦根市とともに「歴史まちづくり法」の認定を受けた。「歴史的風致維持向上計画」を策定し、歴史的遺産の活用に向けているが、「歴史的」ではなく「歴史」そのものの維持向上に努めてもらいたい。

ところで亀山には江戸時代中期、大庄屋打田権四郎昌克が亀山藩内の集落を記録した「九々五集」が残っている。86ヶ村を九×九+五とし

た判じ物のユニークな書名である。ここにも出てくる碁世(つばいそ)、河原田の集落は鈴鹿川の河岸段丘で起伏に富み、至る所に魅惑的な石積がみられる。だが、碁世は急傾斜崩落危険地区で、一部の石積がコンクリート擁壁に置き換わっている。安全を計算で示すことを求められているのだから、「科学的である」とは「科学的でしかない」と言えるかもしれない。

所在地：河原田／三重県亀山市阿野田町  
碁世／三重県亀山市碁世町

林 廣伸 | 林廣伸建築事務所





## 審査員の賞応募の是非を議論

第209回理事会・理事懇談会は、2月21日（木）13時30分～17時、会長以下、理事21名（3名欠席）、監事2名、事務局2名で建築家会館+WEB会議で行われた。

### ■ 理事会

#### 【審議事項】

1. 入退会者承認：13名入会希望、5名退会希望、1名休会希望を承認。会員数4,417名（2月21日現在）
2. 後援名義承認：7件の後援を承認。（すべて、過去に後援実績あり）
3. 定款の軽微な変更の件：2/1付で公益社団法人への移行認定の手続きにおける適合性が認められ、4月からの移行が確実となった。内閣府から、精算時の残余財産の贈与に関して、関係する法令名の記入を指示され、修正が承認された。

#### 【報告事項】

##### 1. 2012年度各賞結果報告と2013年度募集について

- ・ 2012年度のJIAの4つの賞、「優秀建築選」「新人賞」「環境建築賞」「25年賞」の結果と審査経過が石田敏明表彰委員長より報告された。今後、法人の公益移行に伴い、会員だけでなく広く一般（一級建築士）から応募を募ることとなる。

＜芦原会長の意見＞公益法人だから、既存の賞は一般に開かれた方向で良いと思うが、JIA会員のための、成熟した建築家にこそ与えられる賞も必要となろう。会員だけの作品選集もあっていい。すべてが一般公募に流れるのでは、JIAの賞としての意味がない。見直しなどの必要性も考えたい。

- ・ 自身が審査員となっている賞への応募について、是非を議論した。賞がセレクション的な性格ならば可となるし、アワード的なものなら不可、などの意見があり判断は分かれる。石田委員長は、「環境建築賞は2013年度から、審査員は応募できないし、応募するのであれば審査員はできない」と明言した。

##### 2. 2013年度本部役員選挙報告

- ・ 関東甲信越、近畿、九州各支部は理事、北陸、沖縄各支部は理事・支部長、監事1名が改選期にあたり、いずれも立候補者が選挙なしに選出された。

##### 3. 2012年度決算・2013年度予算作成手順について

- ・ 今年度決算は6月の総会に提出でスケジュールに変わりはない。新・新会計でなくても新会計でも可。来年度の予算案は6月の総会前の理事会に提出。ただし、来年度は3月までに支部・地域会を合算したものを内閣府に提出となり、日程的には非常にタイトとなる。

##### 4. ベルコリーヌ問題

- ・ 1月31日にURから、覚書（2012年12月19日の第207回理事会で承認済）通りの入金があった。第二弁護士会が仲裁に入っていたために謝礼を出した。旧特別委員会の委員に対して業務

理事・東海支部長 鳥居 久保



での未払いを、今後処理する予定。

### ■ 理事懇談会

#### 1. 会員増強および新法人移行に伴う会員種別について

- ・ 年度当初より64名減（昨年度191名減）。例年の減少度合いからすると好転。各支部の状況を総合すると、16名ほどの増が見込めそう。
- ・ 協力会員の入会申込書を支部・地域会で独自に作成。支部別案内パンフ、支部別勧誘パンフを各支部で作成する。
- ・ 今年度の入退会の申請期限は3月31日とし、現状の入会資格で審査する。手続きとしては4月の理事会において「旧会員規程」で承認ができるように進める。上記の「今年度の入退会の申請期限は3月31日」という件において、再度理事会案件として追加承認された。

- ・ 新制度の下での現行3種の会員についての経過措置の提案

○ 現行「非登録建築家」／全国で52名。会費は18,000円でありながら正会員と同じ権利。4/1以降はこのカテゴリーが廃止され、シニア会員か正会員のどちらかを選択する。経過措置として一旦シニア会員になり、1年の猶予期間の中で、会費さえ払えば2014年度から再び正会員に戻れるようにする。

○ 現行「協力会員」／現在6名。新制度では「個人協力会員」に移行し、会費も支部の規約に基づき変更される。猶予なしに2013年度から移行される。

○ 現行「専門会員」／現在3名。正会員と同じ待遇。名称変更され同じ資格を持つ正会員になる。

以上、いずれも直接本人に事務局から連絡して理解してもらう。

- ・ 3/31までに退会希望があり、その会員に会費未納があった場合、現行では完済するまで退会できないが、4/1以降は未納があっても退会を認めざるを得なくなる。ただし債権はJIA側にあるため、未納分を請求できるし法的措置に及ぶこともある。

#### 2. 委員会再編試案について

JIAの役割、ミッションを、社会貢献、組織管理、会員サービスの3つの分野に集約し、それぞれに対応して本部委員会を整理した。連動した形で支部委員会も立ち上げたい。「資格制度委員会、災害対策委員会、建築相談委員会」「総務委員会」「広報委員会」は支部単位でも整備しているところが多いので、これらの委員会を基幹として、今後整備する。連絡協議会が支部の委員会を連携する機能として重要になり、それが置かれる場所も今後検討していく。

#### 3. その他

会員会費システムのソフトが開発され、テストランをした。3月に支部でもトレーニングを。本部浅尾さんが担当。

# 東海支部役員会報告

JIAもいよいよ「公益法人」となるようです。当初はいろいろと賛否両論があったようですが、ここまでくれば、公益法人化に向けて一致団結して諸問題に取り組み、解決していく必要があると思います。支部長挨拶にもありましたが、支部においても会員が共通の認識を持って対処することが重要ではないでしょうか？

松本正博 | 三重地域会



日時：2013年3月1日（金）16：00～18：50

場所：昭和ビル 5階 JIA 支部会議室

出席者：支部長、理事、幹事11名、監査1名、オブザーバー7名

## 1. 支部長あいさつ

## 2. 報告事項

### (1) 本部報告

①第209回理事会・理事懇談会（2/21）（鳥居）※理事会レポート参照

②総務委員会（2/14）（服部）

※建築家賠償責任保険について：大幅な変更あり、HPなどにて確認のこと。

### 【審議事項】

・入会13名（静岡1名）、退会5名（愛知1名）、休会1名、を承認。

### 【協議事項】

#### i. 事務局改革・規程類について

●**給与規程、退職金規程、就業規則の改定案** ・本部は既存規程を手直しする方向で、支部は本部で作成するひな形に基づき整備する。・本部事務局改革について、総務委員会で成果の評価、チェックが必要。・今後、会員減（4,000人体制）による収入減に対応する体制作りの検討が必要。

●**役員選挙基準、選任規程案** ・基準・案が示された。コンサルなどの意見を参考に委員会で検討を加えていく。・東海支部割り当て理事について、現行の隔年2名同時から毎年度1名選出へ再度要望。

●**その他** ・規定類作成は、進捗状況のチェックが必要。支部規程類は3月理事会にて、支部では総会にて承認。・電子広告の方法についてはHPに載せるだけ、との回答。・（東海支部として）支部規約作成上、「支部」立ち上げの決定時を調査してほしいと要望した。

#### ii. 会員増強および新会員対応WG報告

・会費自動引落としの検討、各支部準会員募集の取り組みについて、アンケートを行う。・準会員の不始末などに対するJIAとしての責任の取り方を検討する必要がある。

#### iii. 2013年度予算案策定方針について

●**2012年度決算・2013年度予算案作成の手順について** ・決算は新会計にて提出とし、本部で新会計に作り直す。PCA会計入力は各支部事務局に未対応。

●**新会計移行作業について** ・今年度決算・来年度予算作成は、外注で承認の方向。・（東海支部の意見として）次年度以降も外注に頼るなら、従来の方針と大きく変わるし、予算の検討が必要となる。支部での会計入力が外注となると公益比率の検討も外注となり問題では？ 入力フォーマットを作成すれば支部・地域会での入力も可能では？

●**会費納入状況・支出状況の確認**：未納分は督促状発送済。収支状

況に問題なし。

iv. **首都直下型地震発生時の本部機能のリスク管理**：準備態勢の検討を理事会に提案する。

### 【報告事項】

・会員・会計システム管理WG報告：新システムの説明があり、電子投票などへの対応は今後の課題。マニュアル作りは専務・WGにて作成。新システム移行時には会員の移動状況を調査したい。・専門会員、シニア会員の選択の連絡を急ぐ必要あり。

③広報委員会・全国支部広報委員長会議 第11回（2/19）（江川）

i. **全国各支部報告**：持出し役員会、住宅建築賞創設、支部規約・地域会規則の調整を報告。

#### ii. WGなど報告・検討

<機関紙WG>来年度はページ数を減らして毎回発刊の方針。ピーター・クック氏の講演紹介。<WEB 広報WG>各支部HPトップページの統一を図る。準会員制度などは支部HPに掲載の必要あり。<メルマガ>月1回のペースで会員・一般向けにて配信予定。<プロポーザル小冊子WG>まずは紙一枚で伝えられるものを準備、WEBにて本文を伝える方針。<資格制度>横浜大会「資格制度シンポジウム」をまとめる。<会員増強WG>会員種別リーフレット・市民向けリーフレット・申込書の3点セットで配布予定。

④CPD評議会（1/25）（2/25）（塚本）

1/25：41件のプログラム申請について31件認定、10件修正、2/25：44件のプログラム申請について21件認定、6件支部認定、17件修正。

⑤建築家資格制度委員会 第118回（1/24）（水野）：資料にて。

### (2) 支部報告

①リフレッシュセミナーの件（水野）

②CPD評議会（12/21）（3/1）開催の件（塚本）

③会員増強委員会（3/1）（鳥居）

本部での委員会立ち上げに伴い、支部会員増強委員会を立ち上げた。目標は少なくとも減った分を増やす、のスタンスでいく。増強ツールを各地域会で共有し増強方法を議論していきたい。

④「JIA 東海住宅建築賞2013」協賛金のお願い（吉元）

協賛金お願いと、依頼先は賛助会以外の企業とする旨の説明があった。委員会名は「JIA 東海住宅建築賞特別委員会」に決定。

## 議 事

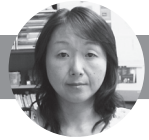
### 1. 審議事項

①入会申込「黒野有一郎」（鈴木利明）：承認 ②支部規約および各地域会規則について（服部）：一部文言訂正後、承認 ③第29回設計競技 決算書（水野）：承認 ④「東海学生卒業設計コンクール2013」予算書・協賛のお願い、および20周年記念事業企画（吉川）：いずれも承認 ⑤東海支部および各地域会2013年度予算書（水野）：一部修正のうえ承認 ⑥森口雅文会員（愛知）名誉会員推薦の件（小田）：承認 ⑦後援名義使用：建築家高宮真介氏講演会「建築の風景と場所性について」：承認 ⑧後援名義使用のお願い：「住宅リフォームフェア2013 in 名古屋」承認

### 監査総評（谷村監査）

公益法人に切り替わる大事な時期です。諸問題に対する対応をよろしくお祈いします。





## 真福寺

岡崎市に東海地区最古とうたわれる寺院があります。その名は真福寺。身体健康と目のお薬師様と親しまれており、聖徳太子建立といわれる寺院です。

本堂の前に100段といわれる石の階段があります。下からの眺めが子どもの頃から好きでした。手摺りにまたがり、滑り降りて遊びました。今思うとなんと罰当たりなことか…。 聖徳太子さま、ごめんなさい。

本堂の裏には、国重要文化財の大師堂があります。文永11年(1274年)、鎌倉中期の建立とされています。大学2年のとき、寺院の模写の課題にした建物です。今から35年前の実測当時から変わらない姿に感銘しました。私の美貌は変化したのに…。

所在地：愛知県岡崎市真福寺町薬師山6 (写真は真福寺のHPより)



## 竹膳料理

真福寺にはもう一つの名物があります。それは竹膳料理。参集殿では、竹の子づくしの精進料理を頂くことができます(要予約)。お刺身、天ぷら、田楽、煮付け、ご飯、お吸い物など、すべて竹の子が主役。さらに、膳、うつわ、箸に至るまですべて竹細工で、清々しい竹の香りを堪能できます。

35年前、お寺の境内にある竹藪から採れる竹の子料理を参拝客にふるまったところ好評を得て、竹膳料理として出すようになりました。

4月には境内でと採れた新鮮な竹の子を味わえます。竹林参道で可愛い竹の子の穂先を愛で、100段を上り、お腹がすいたらぜひ味わって下さい(写真は1,470円のお料理です)。

所在地：愛知県岡崎市真福寺町薬師山6 TEL 0564-45-4626



(※写真は2枚とも真福寺のHPより)

## 地域会だより

### <静岡>

- 2/22 第4回建築ウォッチング:東京工業大学大岡山キャンパス(百年記念館、付属図書館、環境エネルギーイノベーション棟、同窓会館など) 参加者30名(うち会員以外9名)
- 3/7 3月定例運営役員会 賛助会員代表者と三役の意見交換会
- 3/28 総会準備会議
- 3/28 臨時運営役員会「総会準備会議」
- 4/8 監査
- 4/15 4月定例拡大運営役員会
- 4/24 通常総会・記念講演会(金箱温春氏)・懇親会

### <愛知>

- 2/27 建築家賠償責任保険解説 説明会 (※詳細はP8掲載)
- 3/1 「ハウジング&リフォームあいち2013」開場式~ 3/3
- 3/3 TALK & TALK「変わる家族と変わる住まい」(講演会)
- 3/8 愛知県建築士事務所協会:建築賞審査会、役員会
- 3/9 東三河地区会 駒屋修復見学会
- 3/21 名古屋歴史的建造物保存活用推進会議
- 4/23 海外建築研修報告会「ドイツ・スイス・イタリア」の環境建築を巡る旅 事業委員会
- 5/10 役員会・総会

### <岐阜>

- 2/13 2月度役員会 18:30~20:30 岐阜駅ハートフルスクエア小研

修室にて、参加者10名

内容:今年度決算について、来年度予算の検討会、組織の改変について

- 3/14 「ぎふ建築・生活・芸術系学生・生徒優秀作品展」
- ~ 3/20 (建築学会主催、JIA岐阜地域会共催)
- 3/14 (木) 14:00 ~ 3/20 (水) 17:00
- 3/16 (日) 12:00 ~ 14:30 (審査および講習会)
- 15:00 ~ 16:30 (講演会)

場所:てつめいギャラリー

講師:入江経一氏(IAMAS教授)

テーマ:「20世紀から21世紀への建築と社会」

### <三重>

- 2/8 第7回例会(建築文化講演会、『三重の建築散歩展』および三重地域会規則について)
- 2/23 建築文化講演会 講師:栗生明氏「水環境と建築」
- 場所:津市 アスト津 アストホール
- ~ 24 『三重の建築散歩』発刊記念および「三重の建築散歩展」
- 場所:津市 アスト津5Fギャラリー
- (※詳細は、P9、10に掲載)
- 3/8 第8回例会(三重地域会規則および2012年度事業報告・2013年度事業計画について)
- 4/12 第1回役員会(総会準備)
- 4/20 2013年度三重地域会通常総会・記念講演会・懇親会

## 一柳の家族葬は 654,795円～

(日本建築家協会東海支部会員様会員割引価格)

紋朱子前机祭壇(柳1号)(枕花1対) 葬儀費用 726,930円の場合

祭壇から葬儀後に必要な後飾りまでの一切を含んだ  
総額の表示をしております。

1. 表示金額は税込みです。一柳の斎場にて執り行う場合の金額となります。
2. 上記費用には、祭壇、棺、焼香用具、受付用品、葬儀飾り付けに必要なもの、ドライアイス1回、枕飾り用具、後飾り用具、後飾り生花1対、火葬料金と休憩所料金、寝台車料金(市内1回)、霊柩車料金、式場使用料(いちやなぎ斎場)が含まれております。
3. 2については標準的な数量・品質で用意していますが、食事、粗供養品など、数量・品質のご希望により変わるもの、また湯かんなどご利用いただくものは別途料金となります。
4. 宗教者へのお礼は別途になります。

◎ 宗教・宗派にかなった祭壇(価格)を200余种ご用意しております。

日本建築家協会東海支部会員様とご家族の皆様には、  
葬儀基本価格の15%を割引いたします

### いちやなぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号  
TEL (052)745-1212  
地下鉄桜通線「吹上駅」⑥番出口より西へ700m

駐車場 / 170台以上



### いちやなぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号  
TEL (052)899-0111  
地下鉄桜通線「鳴子北駅」②番出口より西へすぐ

駐車場 / 100台以上



古くから受け継いできた葬送という文化  
弔う事を今も大切に伝えます  
信頼と真心の葬儀で130余年  
一柳葬具總本店

安心して任せられるのは一柳です

# 一柳の「家族葬」



株式会社

創業130余年の伝統と実績

一柳葬具總本店

<http://www.ichinaganagi-sougu.co.jp>

ISO 9001

品質マネジメントシステムの国際規格  
JQA-QM4191

葬儀のお申し込み、お問い合わせ、事前相談は

TEL. 052-251-9296

365日  
24時間  
受付

一柳葬具總本店

検索

## 編集後記

●4月よりJIAは公益社団法人としてスタートを切ります。「ARCHITECT」の表紙シリーズも光崎敏正氏の「映画の中の建築」がスタートいたします。スクリーンで建築がどのように映し出されてきたのか拝見するのが楽しみです。三重地域会からは『三重の建築散歩』が刊行されました。50の建築や建築群を時間軸で並べることによって歴史の流れを会員が紹介しています。モノに器が必要なように、人の心にもやはり器が必要なんですね。

建築をつくるだけでなく、発見したり、語ったりするのも建築家の役割です。2012年の7月から始めている「東北からのメッセージ」はみかんぐみの竹内昌義さんで7人目になります。次世代に原発の問題を押し付けたくない思いから住宅のエネルギー問題に取り組まれています。建築から社会問題へアプローチすることは建築家の役割です。

また、4月からJIA東海住宅建築賞の応募が始まります。生きる希望や未来への夢が詰まった楽しくなっちゃう住宅をお待ちしています。(吉元 学)

●田中英彦さんが「木愛の会」の見学会を報告しています。奥三河にある2つの新築木造小学校です。いずれも伝統の良さを活かしつつ、新しい空間づくりに挑戦しています。森林が国土の7割を占めるといわれる日本で、人々は森の恩恵をふんだんに得て生活してきたはず。建築も例外ではなく、木と土と紙という自然素材でつくられてきました。ところがどうしたことが「木は腐る、弱い、燃える」と酷評され、コンクリートや鉄やガラスに取って代わられてしまいました。再び、ところがです。木の良さを私たちは忘れることができないようです。劣化したコンクリート造の校舎の建て替えに際して、木造が選択肢のひとつに再浮上してきました。内装の木質化も進んでいます。子どもたちが、いい匂いとやさしい素材に包まれながら生活し学ぶ

ことができます。コンクリートを否定するものではありません。学校建築は子どもたちに多様な素材の良さを毎日の生活を通じて教えてくれる大事な教科書です。(鈴木賢一)

<お知らせ>大影佳史さんの連載「まちの風景」は休載です。6月号に掲載予定です。

### ARCHITECT

第295号

発行日 2013.4.1 (毎月1回発行)

定価 380円

発行責任者 鳥居久保

編集責任者 吉元 学

編集 東海支部会報委員会

愛知地域会ブリテン委員会

建築ジャーナル内

ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-13-35

CSC HISAYA BLD.

TEL (052)971-7479 FAX 951-3130

発行所 (公社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>